

商店街お得情報スマートに

テクサーが開発したアプリ「イロカ」の画面



京のITベンチャー、アプリ開発

ITベンチャーのテクサー(京都市下京区)が、商店街などでお得情報の発信や店までの道案内をできるスマートフォン用アプリを開発した。利用者の現在地を正確に把握できるほか、多言語にも対応しているのが特徴で、今月から京都三条会商店街(中京区)で導入された。ほかの商店街や地下街の案内などにも広げる考えだ。(三村智哉)

各店舗が発行するクーポンも取得可能。日英中の3言語のいずれかに文章を切り替えたり、音声を自動翻訳したりする機能もある。

利用者の現在地は、約10秒おき



3言語対応、正確に道案内

テクサーは、元大阪大教授でLSI(高密度集積回路)の研究者である今井正治取締役や、教え子の朱強社長らが昨年10月に創業した。イロカは、ZETTAをつかった事業だ。低消費電力で長距離通信が可能な無線通信技術の一種で、開発した中国の会社と関連製品の日本国内での独占販売契約を結んでいる。ZETTAは中継機を活用し低コストで通信環境を整備できるのが特徴。子どもの見守

阪大出身研究者ら創業

りなどあらゆるモノがインターネットでつながる「IoT」の普及を目指している。直近の売上高は約1千万円だが、数年後にはZETTAを主力事業として数十億円を目指す。11月には、京都中央信用金庫の推薦で中小企業支援ファンド「しんきんの翼」による投資が決定した。今井取締役は「ZETTAと

京都三条会商店街は74店舗のことから道案内が正確である上、店舗前に来た時に割引などのお得な情報をスマートに送ったり、各店舗の来店人数を把握したりでき、販売促進に生かせるという。導入費用は200万円程度。複数の商店街に広がれば、利用者は

に設置した機器が発する電波を受信して把握する。衛星利用測位システム(GPS)よりも高精度なことから道案内が正確である上、指定した場所を訪れるとき、抽せん券用の券がもらえるイベントを催す。

GPSが使えない地下街での誘導や、バスター・ミナルでの乗り場案内などにも活用できるといい、同社が販路拡大を目指している。

低コスト通信技術も販売